



彦島八幡宮

彦島八幡宮 宮司 ニュース
 発行者 彦島八幡宮
 宮司 柴田 宜夫
 発行 平成二十七年 七月三十一日

◇宮司の柴田です。 お待たせしました、

宮司プレス第五号の発行です。 いつも、五ヶ月遅れを何とか挽回（ばんかい）しようとして、志（こころざし）を新たにしているのでありますが、なかなか、「有言実行」は、難（かた）いのであります。 ようやく梅雨明けです。 殊（こと）の外（ほか） 厳しい暑さの夏がやってきました。 節分や彼岸と同じ雑節の一つですが、立春、立夏、立秋、立冬の直前の十七日から十九日間が、「土用」です。 一般的には、土用といえは、夏の土用をさすようになりました。 今年の夏の土用の入り（じゅうにし）の並びにより、「土用丑（うし）」の「日」が、二度あります。 今月の二十四日と来月の五日です。 夏の土用には、古くから梅雨明け後に生活用品を虫干しし、厳しい暑さのため、食べ物に気を使って養生（ようじょう）するなどの習わしがありました。 「土用丑の日」には、「ウ」の付く食べ物を食べるといいという言い伝えがございます。 ビタミンが豊富で精が付く鰻（うなぎ）や、夏が旬のウリ（スイカ、キュウリ、カボチャ、トウガンなど）、つるつると食べやすいうどん、食欲を増進する梅干しなどを食べたそうです。 鰻を食べる習慣は、讃岐（さぬき）の国出身の江戸時代の学者である平賀源内が広めたときれませんが、諸説あるようです。 その説が本当であれば、讃岐の出身である平賀が、「うどん」ではなく「うなぎ」を広めたことが、意外でもありません。 妙（みやう）（みよう）、不思議でもあります。 鰻は、稚魚（ちぎよ）が激減し、高騰（こうとう）（こうとう）が続いています。 「うなぎ」に手が出せない方は、二回目の「土用牛の日」である来月の五日は、「ウ」の付く食べ物をお食べになり、滋養強壮（じようきようそう）におつとめください。

◇さて、今年も、終戦七十年であります。 その七十年の最初の十年は「キャッチ アップ（追い付くことです）」の期間だったそうです。 実は、戦争で破壊されたのは、工場や鉄道、住宅などのハードウェアといわれています。 読み書きそろばん能力や、規律性

や勤勉さなどの日本人の特性ともいうべきソフトウェアは、破壊されなかったのです。 日本の長い歴史の中で、戦（いくさ）や内乱のない平和な時代、ラテン語で平和を意味する「パクス」、日本を意味する「ヤポニカ」で、「パクス ヤポニカ」という時代が、二回ありました。 平安時代から保元（ほうげん）の乱までの三百年間と江戸時代の二百五十年間です。 その二回目の「パクス ヤポニカ」である江戸時代に、前述した卓越した日本人らしきともいえるべきソフトウェアが培われたように思います。

◇元禄時代には、殺戮（さつりく）の気風を戒めて、けんかや戦（いくさ）はいけなさとだと人々に植え付けました。 八代將軍吉宗の享保年間には、江戸幕府の三大改革といわれる「享保の改革」がなされて、社会秩序が重視されました。 時代劇はチャンバラといわれますけれども、実際には江戸時代の日本は殺人事件が少なかったそうです。

◇庶民にも読み書きそろばんが広がり、日本人の識字率（しきじりつ）は、高水準になっていきました。 日本の最初の奇跡といわれた明治維新、読み書きができた人の割合は、当時の英国をもしのいでいたそうです。 戦争中に生徒が疎開するとき、まず持つていたのは教科書、敗戦直後の食料や家がなくても、学校には通わせました。 日本人の特性、

日本人らしさが失われなかったのです。そして、そのことが、良質な労働力につながり、いちはやく経済が回復し、「キヤッチアップ」したのです。そして、このことが、二回目の奇跡である、「戦後復興」を成し遂げる

原動力となったと思います。作家で経済評論家の堺屋太一さんは、「三番目の日本」を作ろうと言われていきます。一番目は、明治時代の目指した「強い日本」。二番目は、戦後の「豊かな日本」。三番目は、「楽しい日本」にすると提唱されています。そうしないと少子化は克服できないそうです。

◇これからも、一つ一つの祭典を真心こめて御奉仕申し上げながら、運命共同体としての「楽しい地域社会」が築いていけるよう努力したいと思います。宮司プレスの五ヶ月遅れの挽回という「キヤッチアップ」が、出来ない状態です。「五ヶ月遅れの挽回（ばんかい） 毎月発行」という大目標の看板を降ろし、新たに、これから先の「毎月発行」を新たな目標に掲げてまいりたいと思います。目指すは、「楽しい宮司プレス」です。ご自愛をお祈り申し上げます。

◇六月の祭典行事報告

▼月次祭 *六月一日、十五日

▼貴布禰稻荷神社例祭 *六月九日

▼海士郷恵比寿神社例祭 *六月十日



▼朝粥会 *六月二十一日

▼大祓式 *六月三十日

◇六月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◆維蘇志会六月例会 *六月五日

◆早起会総会 *六月七日

◆岡山県牛窓町にて開催の中国地区氏子青年会研修会に維蘇志会会員八名と共に、参加 *六月二十日～二十二日



◆茅の輪（ちのわ）奉製作業

*六月二十九日、行事委員会

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◆下関支部三役会 *六月一日

◆神職大会、神道史研究会役員会、山口県神社雅楽会役員会 *六月五日

◆下関支部幹事会 *六月八日

◆北九州神職会親睦野球大会

*六月十一日

◆靖国神社参拝旅行団打合 *六月十六日

◆靖国神社参拝旅行

*六月二十三日～二十四日



◆神職養成講習会講師打合、定例

協 議員会

*六月二十六日

▼教誨活動 ※美祢社会復帰促進センター

◆釈放前指導 *六月十七日

▼人権擁護委員活動

◆人権相談 *六月三日

▼玄洋中CS

◆歓送迎会 *六月十二日

▼その他

◆経友会総会 *六月十三日

◆宮司プレス第百四号発行 *六月三十日